

JAMCA ジヤムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.38

2003年7月1日

発行 全国自動車整備専門学校協会
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31
 ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
 ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>



高等教育としての職業教育

東京工科専門学校理事長
 全国自動車整備専門学校協会理事

山本 眞

専門学校への期待

3年振りにJAMCA NEWSへ寄稿するが、その時も「整備学校の評価」という題で、大学に勝る専門学校でなければ生きていけないと述べた。

昨今、専門学校の中で高等教育としての職業教育を目指すべきと言う声が聞こえるようになった。確かに文部科学省は専門学校も高等教育であることを認めた。一方で大学卒業生の職業意識の低さや実務能力の不足から、徹底した職業教育を専門学校に求める声が政治家や企業経営者さらには知識人からも聞かれるようになった。

例えばこの度、東京の専修学校協会が開いた専門学校教育に関する産・官・学の懇談会でも、カリスマ的な技術者・技能士養成の期待が高いことを実感した。しかし残念ながらそれらは単なる「期待」の域を脱していない。つまり実現すると信じていないような気がする。その原因は一に我々専門学校自身の姿勢、つまり資格取得だけが具体的な目標で、職業教育としての目標即ち学校の自主的な人材コンセプトや授業のレベルアップへの挑戦意欲に欠けているからのような気がする。

授業のレベルアップ

我々はこの3年間、まずは今の教



育目標のままですべての授業がその役割を果たしているか品質保証をした上で、次に学校の自主的な人材コンセプトに従って具体的な教育目標を作り、授業内容のレベルアップを図るのが順序であると考えてきた。

その第一ステップである授業の品質保証だけでも、現状の授業評価に始まり、誰でも授業評価ができ、専門家以外でも授業の出来栄に関心を持つ評価基準の作成、全科目シラバスの時間(コマ)ごとの分解(これをコマシラバスと呼んでいる)、そのコマシラバスを簡潔に表現して学生に公開するレジュメの作成、授業終了時の理解度を測り且つ学生も自分の復習材料として使えるカルテの作成など多くの教材を開発してきた。その労力は並大抵ではない。実に教育の改革は努力の継続が必要だという実感である。

第二ステップの授業内容のレベルアップはこれから模索が始まる。私の個人的意見だが、今の専門学校は

「考える」課題の授業が少ない。「何故」という理解が足りないと思う。例えば専門用語の理解も、その言葉自体の意味(例えば英語)との関連を知らないでただ覚えるだけで、知識の関連性が足りない。答えを覚える式の勉強では、答えのない世界と言われる企業社会を生きる基礎能力は付かないと思う。

一級課程の研究

専門学校教育のレベルアップを実現するものとして、一級整備士養成課程が候補に上げられている。しかし一級課程も未だ試験と教科書ができてきたに過ぎない。しかもそれは学校以外の機関が作った能力指標である。これから各学校がその教育目標、カリキュラム、各科目のシラバスを模索し、その実現をフォローして行く行程にある。JAMCAでは一級課程の研究委員会(仮称)を作ろうという提案が先般の理事会で審議された。各校がお互いに高度な職業教育の成果を報告し合う研究会とならんことを期待する。

CONTENTS

2面	OPINION
3面	我が校自慢
4・5面	新入生への導入教育
6面	協会トピックス
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記